

# マイナス196度、超低温の変化を体験

## 岐阜・下呂市立馬瀬小で理科実験教室

全国的に有名な岐阜県・下呂温泉の山向こうにある下呂市馬瀬地区は、日本のほぼ中央、南飛驒の山間を流れる馬瀬川沿いに、集落がつながっています。古くから鮎釣りの名所としても知られています。

そこにある市立馬瀬小学校(松井健治校長、児童31人)で10月27日、ベルマーク財団によるへき地校支援のソフト事業、理科実験教室が開かれました。長くコロナ禍が続く中、今年度は初めての理科実験教室です。講師はNPO法人サイエンスものづくり塾エジソンの会(華井章裕代表)の6人。華井さんは以前、理科教師として下呂市内の高校に勤務した経験があるそうです。

全校生徒を前に、揃いの黄色のポロシャツと緑のエプロンを身につけた華井さんたちは、子どもたちに向かって空中で割れる風船を飛ばしたり、コップからこぼれない水や、手のひらの上で一瞬燃えるけど熱くない火を体験させたりと、手品のような実験を次々と披露していき

ました。

続いて、マイナス196度という超低温の液体窒素を用いた本格的な実験にとりかかります。「いろんなものを凍らせてみたらどうなるのかな? 好奇心が大事です」と華井さん。風船を入れたら、中にあった酸素や二酸化炭素はどうなる? バナナやティッシュペーパーは凍る? そして、子どもたちがそれぞれ持ち寄った野菜やお花は? みんな興味津々な表情で超低温による変化を見つめました。

後半はワークショップ。みんなで「キラキラ万華鏡」を作ります。エジソンの会の方々や先生たちの助けを借りながら一生懸命に取り組みました。

教室の終わりに児童代表が「今日はみんなでたくさんを学ぶことができました」とお礼の言葉を述べました。華井さんは「これからも楽しみながら、理科に興味をもってもらいたいです」と話しました。



④風船の手品?

⑤液体窒素で凍らせてみよう ⑥キラキラ万華鏡づくり

# 児童も協力して500万点達成

## 神奈川・茅ヶ崎市立松浪小



④左からベルマーク担当の久米麻里子さん、PTA会長の日野聖美さん、500万点達成の感謝状を持つ安倍武雄校長、昨年度PTA副会長の高橋容子さん、ベルマーク担当の市間敦子さん

⑤購入したモニターは各教室に配備されているものより画面が大きく、学習内容が伝わりやすくなったそう



神奈川県の茅ヶ崎市立松浪小学校(安倍武雄校長、児童980人)の累計集票点数が今年4月、500万点を超えました。活動はPTAが担い、着実に点数を積み上げてきました。しかし今回、達成直前に8万点もの点数を積み上げたのは子どもたちでした。

ベルマーク活動をリードしたのは昨年度の5年5組。きっかけは担任だった萩尾雅貴先生が授業でSDGs(持続可能な開発目標)を取り上げ、「松浪小をもっとよい学校にすることはSDGsにつながる」という結論に子どもたちがたどり着いたことでした。そこで、SDGsの「誰一人取り残さない」という原則に従い、「松浪小の児童全員のためになる活動」を考えることになったのです。

学校の現状を調べると、PTAのベルマーク活動が、コロナ禍の影響で思うように出来ていないことが分かりました。そこで、クラス内でのベルマーク収集を始めましたが、クラスの約30人だけだと、期待したほど多くのベルマークが集まりません。そこから、学校全体での収集という大きな試みが始まりました。

宣伝のためのCM制作やベルマークポスト設置にあたっては、子どもたち自身で学校長に許可を取りました。ポストは各クラスに置かれていましたが、それを集約して新たにデザインしたものを昇降口など校内6カ所に置きました。集まっ

たベルマークは、休み時間や放課後も使いながら仕分けました。今回集まった点数と、これまで貯まっていたベルマーク、回収箱に貯まっていたテトラパックも合わせて、合計で8万3252点。財団への発送の準備も自分たちの手で行いました。

子どもたちの活動を見守っていた保護者と先生方は早速子どもたちに還元しよう話し合い、55型モニターとモニター台の購入を決めました。

今は6年生になっている子どもたちに、活動を振り返ってもらいました。歳常夏梨さんは「先生と交渉したり、文章を考えたりすることが難しかった」。でも、こうした活動で子どもたちは鍛えられていったようです。畑中爽甫さんは「宣伝する力が身に付いた。この力は委員会活動にも応用できそう」と語ります。

神保桃さんは、「これまでは捨てちゃうこともあったベルマークも、みんなで集めるとモニターが買えるほどにまでなることに驚きました」、下川蓮太郎さんは「身近な商品にベルマークが付いたり、普段飲んでいるものがテトラパックだったり、新しい発見が出来ました」。また、鷹司雅教さんは「ベルマークを数えることは楽しく、終わると達成感を味わえました」と感想を教えてくださいました。

# 「次はグランドピアノを」

## ベルコン2020佳作 兵庫・芦屋市立山手小



④左から秋本孝幸教頭、俵原正仁校長、家庭科の村岡宏美先生

⑤前列左から長田知子さん、小野奈苗さん、眞竹淳子さん、後列左から上月弥生さん、高橋早乃さん



兵庫県の芦屋市立山手小学校(俵原正仁校長、児童655人)は、昨年度のベルマーク便りコンクールの佳作校。でも新型コロナウイルスの影響で、取材の約束が何度延期に。全国的に感染が下火になった今年11月、「5度目の正直」として、ようやく取材が実現しました。

受賞した2020年度にPTA役員だった方々が集まってくれました。コロナ禍が広がっていった時期でしたが、当時会長だった小野奈苗さんは「色々な活動をカットしたけれど、中でもベルマークは大切な活動なので、継続しました」と話してくれました。

お便りには「ミシンGET★大作戦」と称し、ベルマークでミシンを6台買ったことが報告されていました。「新しく買ったミシンは、子どもたちの間でも取り合いになっています」と家庭科の村岡宏美先生。保護者にとっても、普段のべ

ルマーク活動がどう実を結んだのかははっきり伝わるという効果があったようです。次の目標は、なんとグランドピアノ。「夢のバトンをつなげよう」を合言葉に、200万点を目指すと宣言し、いまま活動中です。

現在PTA会長の上月弥生さんは、昨年度の庶務から続けて役員を務めています。「ベルマークに関わって、こんなに夢のある活動だと初めて知りました」。子どもたちがミシンを使い続け、さらに未来にはグランドピアノ……。今の人同士をつなげるヨコ方向に加え、時間を越えたタテの繋がりも生まれていく。「タテもヨコも広がる運動ですね」と話しました。

山手小は給食がとておいしいです。市として給食に力を入れており、2022年春には「あしやのきゅうしょく」という映画も公開されます。そのロケ地の学校は山手小なのだそう。

## 東芝ライフスタイル 「LED ランタン」 発売

協賛会社の東芝ライフスタイル(ベルマーク番号43)が単3形乾電池3本で使える「LEDランタン」を発売しました。明るさは最小約6ルーメンから最大約200ルーメンまで無段階で調整することができます。光の色は利用シーンによって選べる白色と電球色です。玄関ではぱっと明るく、就寝時は優しい光、と

使い分けられる優れたものです。さらに人感・明暗センサーもついているため、暗い場所で人の動きを察知して自動的に点灯してくれます。防水仕様で、レジャーや非常時、玄関でも活躍します。▽LEDランタン LKL-4000 ベルマーク29点(オープン価格)

